



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年2月12日
上場取引所 東

上場会社名 セイコーホールディングス株式会社
 コード番号 8050 URL <http://www.seiko.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中村 吉伸
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 瀧沢 観 TEL 03-6739-3111
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月13日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期 第3四半期の連結業績 (平成25年4月1日 ~ 平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	225,606	3.8	13,370	50.4	11,213	62.7	11,976	63.6
25年3月期第3四半期	217,304	△ 3.5	8,891	47.4	6,890	398.7	7,320	—

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 29,264 百万円 (379.4%) 25年3月期第3四半期 6,103 百万円 (— %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	57.95	—
25年3月期第3四半期	40.03	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	382,832	69,553	17.5
25年3月期	355,308	40,801	11.0

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 66,965 百万円 25年3月期 39,013 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	2.50	2.50
26年3月期	—	0.00	—		
26年3月期 (予想)				5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想 (平成25年4月1日 ~ 平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	300,000	5.7	14,000	153.5	10,000	208.3	9,000	62.8	43.55

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 — 社（社名） — 、除外 — 社（社名） —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	207,021,309 株	25年3月期	207,021,309 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	364,034 株	25年3月期	342,120 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	206,669,100 株	25年3月期3Q	182,904,979 株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続を実施しています。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

【添付資料】

添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	P. 5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	P. 5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	P. 5
(4) 追加情報	P. 5
3. 四半期連結財務諸表	
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 10
(継続企業の前題に関する注記)	P. 10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 10
(セグメント情報等)	P. 10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2013年4月1日～12月31日)におけるわが国の経済は、株高が進んだことから資産効果などを通じて消費者マインドが改善し、住宅投資・公共投資が増加することなどで回復傾向が続いています。世界経済は、米国がシェール革命による貿易収支改善などを背景に緩やかながら回復基調となっており、欧州でも、1年半にわたり続いたマイナス成長から脱し、持ち直しへと転じつつあります。中国も一時は景気下振れリスクが高まりましたが、その後のテコ入れにより安定化に向かいつつあります。

当社は「社会に信頼される会社であること」を引き続きグループ経営の基本理念とし、新たに当連結会計年度を初年度とする3か年計画である第5次中期経営計画を策定しました。当中期経営計画においては、「事業収益の最大化に向けてウオッチ事業を中核に事業ポートフォリオを再構築すると共に、経営基盤の質的強化を実現する」を基本方針としております。

また、開示セグメントにつきましては、第5次中期経営計画の策定とともに当社における経営管理手法を変更したことにより、当期より従来の電子部品等事業を半導体、水晶振動子、電池・材料、プリンタ、ハードディスクコンポーネントおよびカメラ用シャッター等を取り扱う電子デバイス事業と、データサービス、情報ネットワークシステム、電子辞書等を取り扱うシステムソリューション事業に区分しております。また、それぞれの事業の量的基準からウオッチ事業、電子デバイス事業およびシステムソリューション事業を報告セグメントとして開示し、クロック事業、眼鏡事業等は「その他」の区分に一括して開示しております。

当社の当第3四半期連結累計期間の連結売上高は、前年度の第4四半期に行った科学機器事業売却の影響があったものの、前年同期より83億円増加し、2,256億円となりました。事業別では、ウオッチ事業は国内・海外で順調に売上を伸ばし、電子デバイス事業でも半導体を中心に回復しました。一方、システムソリューション事業は新製品開発の遅れなどにより伸び悩みました。連結全体で国内売上高は1,047億円(前年同期比6.6%減)、海外売上高は1,208億円(同14.9%増)となり、海外売上高割合は53.6%(前年同期は48.4%)となりました。利益面では、営業利益はウオッチ事業を中心に大きく伸び、対前年同期比44億円増の133億円となりました。また、営業外収支がほぼ前年同期並みで推移したことから、経常利益も前年同期を43億円上回る112億円となりました。前々年度のタイにおける洪水被害に関わる受取保険金46億円および関係会社株式の売却による投資有価証券売却益8億円など、合計で55億円を特別利益に計上する一方、退職特別加算金6億円および賃借契約損失引当金繰入額6億円を特別損失に計上しました。これらにより法人税等および少数株主利益控除後の四半期純利益は119億円(前年同期比63.6%増)となりました。

8月にオフィシャルタイマーを担当したIAAF世界陸上2013モスクワでは、新型のスターティングブロックやLED搭載のフィールドイベントボードを新たに導入し、大会の盛り上がりにも貢献することができました。

【セグメント別の概況】

各セグメントの業績は次のとおりです。

① ウォッチ事業

ウォッチ事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比199億円増加の1,114億円(前年同期比21.8%増)となりました。国内では、高価格帯商品である「グランドセイコー」、「クレドール」をはじめ、中低価格帯商品のレディースウォッチ「ルキア」やメンズウォッチ「ブライツ」など幅広い価格帯で売上を前年同期より伸ばしました。前期の9月に投入した世界初で唯一のGPSソーラーウォッチ「アストロン」からセイコー腕時計100周年を象徴するモデルとして創業者服部金太郎の理念を刻印した「服部金太郎特別限定モデル」を発売し、これら新製品が牽引するかたちで「アストロン」も順調に売上を伸ばしました。また、高級品3ブランド(グランドセイコー、クレドール、ガランテ)を戦略的に展開する「セイコープレミアムウォッチサロン」を当期に入り新たに4店オープンし、合計26店舗の展開に拡大するなど差別化戦略にも引き続き力を入れております。海外では、米国で大手チェーンやデパート向け売上が好調に推移し、欧州では英国、フランス、ドイツなどで売上を伸ばしました。また、アジアでは中国で売上を前年同期より落としましたが、台湾などで売上を伸ばしました。円安効果の影響もあり、円貨換算後の売上高はアメリカ、欧州、アジアそれぞれの地域で前年同期を大きく上回っております。ウォッチムーブメント販売は円安の進行により価格競争が激しくなり、特に標準ムーブメントは伸び悩みましたが、高付加価値商品の大手顧客向けは順調に推移しました。

利益につきましては、売上高の増加にともない営業利益が前年同期比30億円増加の116億円となりました。

② 電子デバイス事業

電子デバイス事業は売上高697億円、営業利益22億円となりました。分野別には、半導体は車載向けやスマートフォン向け製品等を中心に売上が伸び、電池もスマートフォン向けなどの売上が順調に推移しました。プリンタは新興国向け建材市場を中心に需要が拡大しております。ハードディスクコンポーネントもタイの洪水被害の影響を受けた前年同期より売上が回復しました。

③ システムソリューション事業

システムソリューション事業は売上高149億円、営業損失62百万円となりました。決済端末関連製品は新製品の投入と客先の設備投資の前倒しなどにより売上を伸ばしましたが、モバイル関連は製品開発の遅れなどにより売上を落としております。

④ その他

その他に含まれる事業では、眼鏡事業、クロック事業は円安の影響もあって売上は増加し、また和光事業も本館や法人営業が好調に推移し、商品別ではウォッチ、ジュエリーなどを中心に全体で二桁の伸びとなりました。これらにより売上高369億円、営業利益3億円となっております。

(2) 財政状態に関する説明

【資産・負債・純資産の状況】

当第3四半期連結会計期間末の総資産は3,828億円と、前年度末に比べて275億円の増加となりました。受取手形及び売掛金が17億円、たな卸資産が85億円増加したことなどにより、流動資産は101億円増加の1,670億円となっております。固定資産では、有形固定資産が18億円、投資その他の資産が157億円増加した結果、合計で173億円増加し2,158億円となりました。

負債の部では、支払手形及び買掛金が35億円、未払金が31億円減少した一方、電子記録債務が42億円、繰延税金負債(固定負債)が44億円増加し、負債合計では前年度末より12億円減少の3,132億円となりました。

また、株主資本は111億円増加し、その他の包括利益累計額合計も168億円増加したことで、純資産合計は前年度末と比べて287億円増加の695億円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期でウオッチ事業が順調に推移したことから、連結営業利益およびウオッチ事業の営業利益を前回予想より10億円上回る見通しといたしました。また、第4四半期に特別損失の発生なども見込まれることから当期純利益は前回予想より20億円下回る90億円となりました。なお、当第4四半期の想定為替レートは1USドル=100円、1ユーロ=130円であります。

修正後の業績見通しは以下のとおりです。

【通期連結業績予想】

	今回業績予想	前回(11月12日発表値)
売上高	3,000億円(前年比 5.7%増)	3,000億円
営業利益	140億円(前年比 153.5%増)	130億円
経常利益	100億円(前年比 208.3%増)	90億円
当期純利益	90億円(前年比 62.8%増)	110億円

【通期セグメント別業績予想】

単位：億円

	売上高		営業利益	
	今回予想	前回	今回予想	前回
ウオッチ事業	1,450	1,450	120	110
電子デバイス事業	900	900	25	25
システムソリューション事業	250	250	5	5
事業別合計	2,600	2,600	150	140
その他	500	500	5	5
連結合計	3,000	3,000	140	130

(注) 連結合計はセグメント間の内部売上高消去など、連結調整後の数値です。

※ 上記の予想は、当社が現在入手している情報および合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

(4) 追加情報

（連結子会社の事業年度等に関する事項の変更）

連結財務情報のより適正な開示を図るため、第1四半期連結会計期間より、決算日が連結決算日と異なっていた連結子会社のうち、Seiko Instruments (H.K.) Ltd. 他6社については決算日を3月末日に変更し、Dalian Seiko Instruments Inc. 他5社については連結決算日に本決算に準じた仮決算を行った財務諸表を基礎とする方法に変更しております。

これらの変更により、当第3四半期連結累計期間は、平成25年4月1日から平成25年12月31日までの9ヵ月間を連結しております。なお、当該連結子会社の決算期変更に伴う損益については利益剰余金に直接計上しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	42,830	42,865
受取手形及び売掛金	43,583	45,382
たな卸資産	60,638	69,158
未収入金	2,557	2,824
繰延税金資産	3,454	3,084
その他	5,258	5,302
貸倒引当金	△1,453	△1,585
流動資産合計	156,867	167,032
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	101,285	107,697
機械装置及び運搬具	102,312	107,335
工具、器具及び備品	33,407	35,093
その他	3,567	3,699
減価償却累計額	△174,473	△183,414
土地	76,148	76,199
建設仮勘定	4,817	2,312
有形固定資産合計	147,065	148,924
無形固定資産		
のれん	9,541	9,048
その他	6,262	6,494
無形固定資産合計	15,803	15,543
投資その他の資産		
投資有価証券	28,191	43,981
繰延税金資産	1,786	1,764
その他	8,941	8,728
貸倒引当金	△3,348	△3,141
投資その他の資産合計	35,571	51,332
固定資産合計	198,440	215,800
資産合計	355,308	382,832

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	38,840	35,243
電子記録債務	3,333	7,625
短期借入金	54,065	60,094
1年内返済予定の長期借入金	65,352	38,533
未払金	14,833	11,676
未払法人税等	1,416	1,999
繰延税金負債	104	115
賞与引当金	2,003	1,774
その他の引当金	779	961
資産除去債務	16	16
その他	14,139	11,577
流動負債合計	194,885	169,619
固定負債		
長期借入金	79,571	100,423
繰延税金負債	4,946	9,373
再評価に係る繰延税金負債	4,218	4,218
退職給付引当金	19,974	19,372
その他の引当金	1,079	1,141
資産除去債務	338	343
負ののれん	189	—
その他	9,303	8,787
固定負債合計	119,621	143,659
負債合計	314,507	313,278
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	7,414	7,414
利益剰余金	22,301	33,429
自己株式	△134	△144
株主資本合計	39,580	50,699
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△2,276	8,803
繰延ヘッジ損益	△332	△246
土地再評価差額金	7,617	7,617
為替換算調整勘定	△5,575	91
その他の包括利益累計額合計	△567	16,266
少数株主持分	1,787	2,587
純資産合計	40,801	69,553
負債純資産合計	355,308	382,832

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	217,304	225,606
売上原価	148,622	147,844
売上総利益	68,681	77,762
販売費及び一般管理費	59,790	64,391
営業利益	8,891	13,370
営業外収益		
受取利息	160	110
受取配当金	224	181
為替差益	457	1,384
持分法による投資利益	499	—
その他	1,064	1,357
営業外収益合計	2,407	3,032
営業外費用		
支払利息	3,645	3,106
持分法による投資損失	—	1,256
その他	761	827
営業外費用合計	4,407	5,190
経常利益	6,890	11,213
特別利益		
受取保険金	3,676	4,628
投資有価証券売却益	—	843
関係会社貸倒引当金戻入額	—	119
固定資産売却益	1,560	—
特別利益合計	5,237	5,591
特別損失		
退職特別加算金	723	646
賃借契約損失引当金繰入額	—	631
災害による損失	694	—
投資有価証券評価損	122	—
その他	868	—
特別損失合計	2,408	1,278
税金等調整前四半期純利益	9,719	15,526
法人税等	1,798	3,239
少数株主損益調整前四半期純利益	7,921	12,286
少数株主利益	600	309
四半期純利益	7,320	11,976

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	7,921	12,286
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3,621	10,962
繰延ヘッジ損益	△71	86
土地再評価差額金	283	—
為替換算調整勘定	1,820	4,096
持分法適用会社に対する持分相当額	△228	1,832
その他の包括利益合計	△1,817	16,977
四半期包括利益	6,103	29,264
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,487	28,810
少数株主に係る四半期包括利益	616	453

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	ウオッチ 事業	電子部品等 事業	クロック 事業	眼鏡 事業	その他の 事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	90,934	95,914	5,427	16,282	8,745	217,304	-	217,304
セグメント間の 内部売上高又は振替高	623	2,548	1,524	49	1,467	6,213	△ 6,213	-
計	91,558	98,462	6,952	16,331	10,213	223,518	△ 6,213	217,304
セグメント利益又は損失(△)	8,610	874	△ 483	87	91	9,180	△ 289	8,891

- (注) 1. セグメント利益の調整額△289百万円には、のれんの償却額△546百万円、セグメント間取引消去等1,058百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△801百万円が含まれております。全社費用の主なもの、親会社(持株会社)に係る費用であります。
2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
3. 本セグメント情報等は、当第1四半期連結会計期間からの区分方法の変更前の報告セグメントに基づいて算定したものであります。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	ウオッチ 事業	電子 デバイス 事業	システム ソリューション 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	110,710	66,386	14,683	191,781	33,825	225,606	-	225,606
セグメント間の 内部売上高又は振替高	769	3,324	279	4,372	3,164	7,537	△ 7,537	-
計	111,480	69,711	14,962	196,153	36,990	233,144	△ 7,537	225,606
セグメント利益又は損失(△)	11,639	2,209	△ 62	13,786	341	14,128	△ 757	13,370

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、クロック事業及び眼鏡事業等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額△757百万円には、のれんの償却額△521百万円、セグメント間取引消去等837百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,074百万円が含まれております。全社費用の主なもの、親会社(持株会社)に係る費用であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より電子部品等事業を電子デバイス事業とシステムソリューション事業に区分しております。また、クロック事業、眼鏡事業等は「その他」の区分に一括して開示しております。

各報告セグメントに属する主要な製品及び商品は以下のとおりであります。

事業区分	主要な製品及び商品
ウオッチ事業	ウオッチ、ウオッチムーブメント
電子デバイス事業	半導体、水晶振動子、電池・材料、プリンタ、ハードディスクコンポーネント、カメラ用シャッター
システムソリューション事業	データサービス、情報ネットワークシステム、電子辞書
その他	クロック、眼鏡レンズ・フレーム、高級宝飾・服飾・雑貨品、設備時計 他

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報を当第3四半期連結累計期間の区分方法により正確に算定するために多大な負担を要することなどから、当第3四半期連結累計期間のセグメント情報を前第3四半期連結累計期間のセグメント情報の取扱いに基づき以下のとおり表示しております。

当第3四半期連結累計期間（自平成25年4月1日至平成25年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	ウオッチ 事業	電子部品等 事業	クロック 事業	眼鏡 事業	その他の 事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	110,710	81,070	5,498	18,274	10,052	225,606	-	225,606
セグメント間の 内部売上高又は振替高	769	3,195	1,721	53	1,368	7,108	△7,108	-
計	111,480	84,265	7,220	18,328	11,421	232,715	△7,108	225,606
セグメント利益又は損失(△)	11,639	2,227	△578	518	395	14,204	△833	13,370

- (注) 1. セグメント利益の調整額△833百万円には、のれんの償却額△521百万円、セグメント間取引消去等761百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,074百万円が含まれております。全社費用の主なもの、親会社(持株会社)に係る費用であります。
2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。